



# 深山の桜

令和 2年 6月  
第 18号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。  
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何  
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の  
魅力に少しずつ気づくようになる。  
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、  
だんだん細い道となる。  
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。  
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

筑紫野市大字吉木2459-1

## よい影響を与えられる人になるための要素を考える

自宅に帰ると、玄関に子供のランドセルや荷物が無造作に置かれ、「いたい何人家族なんだ」というくらいに、靴が並んでいます。疲れて帰宅する私にとつて、ため息が出る瞬間です。

以前の私であれば、腹が立って、全員を玄関に呼びつけては、目の前で注意し、整頓させていたように思います。親として当然、躰けは重要です。その場、その場で注意しなければいけないということも理解しています。しかし、呼びつけ、叱って、注意したところで、数日すると、元に戻ってしまい、自分自身が更に、動揺するだけだということにも気づきました。

では、どうすれば、ある程度きれいに片づけられ、整頓することができるのでしょうか？  
その答えは、私自身が良い影響を与えられる行動や態度(態度とは、叱り方や諭し方、声のトーンや表情を言う)ができていないということです。

私の行動や態度が、子供たちのやる気や達成感に結びついているかを夫婦で話し合っているかということも、課題の一つです。親が見守る以上に、子供は親のことをよく観察し、悪い部分は教えなくても、学び行動するものだと言育てを通じて考えさせられます。

一方、子育ての話しを会社に置き換えて考えた時に、社員が成長できた分だけしか、会社は成長しませんし、社員の成長は、経営者である我々の責任によるものが大半です。

就労事業と児童さんの事業では、時間をかける部分が大きく違いますので当然、社員の困りごと也不同じます。人に良い影響を与えるための要素として、私が社員の皆様に求めることは……。

- ① 自分の行動に動機と根拠を持つこと。(常に人の動きをみて、考え、協力的な行動をとること。)
- ② 人のお困りごとを、自分のこととして受け止める、思いやりのある思考を持つこと。
- ③ 「自分がやります。させてください。」という率先垂範の気持ちを持つこと。

それぞれに、資格、経験年数、考え方は違いますが、そんな中でもわたしは、人が困っている時に、いかにその方がしてほしいことを「的確に」、「素早く」、「気持ちよく」実践できるか、そして、支援をする人間が、家庭のことや、人間関係のことで不安を感じているのならば、真に力を発揮することなどできないというのが考え方の基本です。以前も申しましたが、わたしは「社員の大切」を「自分自身の大切」と同じ位置で物事を考えるようにしています。どうぞ社員の皆様も、自分より弱い立場の方に對して、謙虚で思いやりのある行動が発揮できることを期待しています。「素心の実践 日常の心がけ二十一項目」を意識しながら、自分自身が良い影響を与えられる人に少しでも近づけるように、努力でき、そんな気持ちを持たなくさんの方に発信できる私はとても幸せです。

グラブハート所長 久保 成明



# 深山の桜

令和 2年 7月  
第 19号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何年か、そして何十年か過ぎ、やがて人々は、その桜木の魅力に少しずつ気づくようになる。はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、だんだん細い道となる。その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport  
発行者 久保成明  
〒818-0004  
筑紫野市大字吉木2459-1

## スキルアップを目指すためにまず成すべきことは何か

私は、人とお話をするときに、次のことを意識しています。

- ① 自分が相手よりも、話しすぎてはいないか。(相手の話を傾聴できているか。)
- ② 相手の方が興味を持てる話し方や表情で接することができたか。
- ③ 相手の方にながしかの影響を与えることができたか。

スキルアップにはまず、「人の話しを丁寧に聴く」ということが必要です。そして、笑顔であいさつが自然にできる人は、さらにスキルが高い人だと言えます。

人は知らず、知らずのうちに、自分中心(利己的)に物事を考え行動します。その結果、せつかく正しいことを行つたとしても、評価をされなかつたり、物事がうまく進まなかつたりします。

私が、学ばせていただいた素心学では、本質的要素と付属的要素という形で、わかりやすく体系付けられた考え方を推奨しています。

本質的要素とは、人間の徳性を指します。徳性とは「人柄」と置き換えて差しさわりありません。「人を見た眼で差別してはいけない。」「お箸はきちんと持ちましょう。」「脱いだ履き物は揃えましょう。」「お宅に上がる時には、お邪魔します。お邪魔しましたと言う。」「目上の人には正しい言葉

使いをしましょう。」「など、人と接するとき、不快さを与えないための行動を周囲の方が、自然に教えて下さっていました。それが人としてのスキルアップになつていたような気がします。

本質的要素は直ぐに利益や損得をもたらす事柄ではありませんが、人生を重ねていくうえで積み上げる豊かさではないかと私は思います。

一方、付属的要素とは、専門的知識や教養的知識を指します。私がこの事業で生活ができるのも、専門的資格や経営に必要な知識を学び、それを行使しているからに他なりません。

付属的要素は生活に張り潤いをもたらす、達成感や充実感から、生きているという実感が持てるようにもなり、未来を創造するきっかけにもなります。

しかし、そればかりに囚われてしまう人生は、競争を生み、ぎすぎすした人間関係を創り出します。嘘や偽りの中で、正しいことを口にする。「面倒くさい奴だ。」「遂に批判の的にされるケースもあるのではないだろうか?そんな会社なら私は入社したくないです。私たちの会社の理念は「お困りごとの解決」です。社員の皆様がスキルアップを考える時に、背骨に一本「お困りごとの解決」をしつかりと据えて事にあたつていただければ、私はとても幸せです。

クラブハート所長 久保成明